

薬連ハイライト

年頭のご挨拶



衆議院議員・薬剤師

逢坂 誠二

新年あけましておめでとうございます。
山本信夫会長はじめ、日本薬剤師会の皆様には、お健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。日本薬剤師会の会員の皆様におかれましては、日頃より逢坂誠二の議員活動に対しまして、特段のご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。
新型コロナウイルス感染症は2類から5類へ移行したとはいえ、未だ感染リスクはなくなっておりません。ロシアによるウクライナ侵攻は終わりが見えず、中東でも悲惨な紛争が勃発し、物価高騰と円安の継続で、国民の平穏な生活はもとより、医療現場に大きな影響を及ぼしている中で、薬剤師の皆様が、日夜懸命に職務に精励され、その献身的なご尽力によって、国民の命と健康が支えられておりますことに、心からの敬意と感謝を申し上げます。
後発医薬品を中心に医薬品の供給が不安定な状況が継続しています。医薬品の流通改善の取り組みも停滞しており、わが国の医薬品の安定供給基盤が失われかねません。また、いわゆるドラッグラグの解

消は多くの日本人の切実な願いとなっています。更に、コロナ対応ワクチンや治療薬の開発過程で明らかになった創薬、研究開発能力が低下していることも、国民の命と健康を守る観点から、看過できません。
昨年、私が中心になってこれらの問題に関し、薬価改定の問題、今後の医薬品産業のあり方などについて、政府へ提言を行いました。また、薬剤師の確保に関して、厚生労働省・人事院に対して、強く要請を行っております。
今年は、トリプル改定が行われる重要な年です。診療報酬改定では、薬剤師の専門性と今後の活躍が持続可能なものとなるために、皆様の働きがまっとうに評価された改定にならなければなりません。
日本薬剤師会、薬剤師の皆様と力を合わせ、山積する課題解決のために、私、逢坂誠二は、引き続き、国会の場で全力を尽くしてまいります。
この一年が皆様にとりまして、更なる飛躍の年となりますことを心から祈念し、年頭のご挨拶といたします。

年頭所感



参議院議員・薬剤師

本田 顕子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
公益社団法人日本薬剤師会会員の皆様におかれましては、穏やかに新たな年を迎えられたことと存じます。
昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止と必要な医療提供体制の確保が求められる「特別な期間」を乗り越えた年となりました。全国各地域の実情に応じて医療・介護等の提供体制を現場で支える会員の皆様、感染防止に注意を払いつつ新型コロナ対策の徹底にご尽力され、国民の皆様命と暮らしを守ってこれましたことに敬意と感謝を申し上げます。
医薬品の供給不足に関しまして、会員の皆様にご負担とご心配をおかけしているところです。昨年の補正予算での増産支援や不採算品目への薬価上の対応などがなされましたが、引き続き、産業構造上の対応策を含め供給安定化に向けて力を尽くしてまいります。
通常国会では令和6年度予算案が審議されます。
昨年末に予算案が閣議決定されるまでの間、党内での議論は例年にも増して激しいものでした。国民

の命と暮らしを守るには、何よりも医療・介護等を担う人材がいなくては成り立ちません。公定価格の下で従事する特殊性を十分考慮して、引き続き、物価の動向や賃上げ状況を見守り、医療系人材を他の分野へ流出させることのないよう取り組んでまいります。
医薬品の販売制度についても今年は大きな変革期を迎えます。従前から厳格に規制されてきました麻薬・覚醒剤などに比べ、近年は一般用医薬品の濫用による健康影響が若年層を中心に顕在化し、濫用問題がより日常の身近な問題になっています。濫用防止のための制度設計に当たり、薬剤師が本領発揮する環境づくりを推進し、そして濫用の背景に存在する社会全体が抱える悩みや不安の解消にも努めてまいります。
日本薬剤師会会員の皆様にとりまして本年が実り多き一年となりますことをお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。
本年も変わらぬご指導をよろしくお願い申し上げます。

令和6年度年頭所感



参議院議員・薬剤師

神谷 政幸

新年明けましておめでとうございます。日本薬剤師会会員の先生方におかれましては、お健やかに輝かしい新年を迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。また、日頃より温かいご支援を賜っておりますこと、この場をお借りいたしまして、深く御礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、1月からの通常国会では内閣委員会、資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会、厚生労働委員会でそれぞれ質問に立ちました。また、通常国会会期中に「経済財政運営と改革の基本方針2023」いわゆる骨太の方針や規制改革に対して、政府や党内で議論を行いました。国会閉会中は電子処方箋モデル事業や訪問薬剤管理指導、終末期医療等について現場の状況を視察させていただきました。GE製薬工場と卸の物流センターの視察では、医薬品供給問題について意見交換を行い、また大麻取締法改正に関する現状把握のため、研究施設や大麻草栽培について視察を行いました。10月からの臨時国会では厚生労働委員会において、一般

用医薬品のオーバードーズ対策における学校薬剤師の活用や医薬品の安定供給、次期診療報酬・調剤報酬改定に関して薬局の現状を訴え、政府の対応を求めました。

新年を迎え今年はトリプル改定や、電子処方箋等を含めた医療DXへの対応等、様々な変化があるかと存じます。持続可能な社会保障制度の構築のため、今後薬局・薬剤師の果たす役割は、益々大きくなるものと思われまます。

本田顕子先生と共に皆様の声を国政の場に届け、また国民や患者さんに対し、安心・安全な薬物療法の提供等にご尽力されておられる先生方のお役に立てるよう、本年もしっかりと仕事をして参る所存です。引き続きご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

日本薬剤師会会員の先生方の益々のご活躍と、会員の皆様にとって本年が素晴らしい一年となりますよう祈念申し上げます、新年の挨拶といたします。

第2回都道府県薬剤師連盟会長会が開催される

令和5年11月29日（水）、令和5年度第2回都道府県薬剤師連盟会長会がウェブにて開催された。小山常任総務の司会で開会され、冒頭挨拶で山本会長は、来年の改定に向けての財源確保の重要性を述べられた。続いて来賓挨拶の中で、本田あきこ参議院議員が医療提供確保のため裏付けのある予算の確保が大切と述べられ、神谷まさゆき参議院議員も社会保障を守るために尽力したいと述べられた。その後、山本会長が座長となり議事が進行された。川田幹事長からは、第2次岸田第2次改造内閣役員人事、自民党薬剤師問題議員懇談会・総会、岸田総理所信表明演説における「社会保障負担の抑制」方針についてのロビー活動についてなど直近の政治課題が報告された。原口副会長から、SNS活用状況及び担当者に関する調査結果と薬連タイムズのコンテンツについて、石井副会長から1月31日（水）に開催される

全国会長・幹事長拡大会議等今後の会議日程について説明があり、大澤副会長から、全国若手薬剤師フォーラム2023についての報告とその共有について、また本田あきこ物語を広めることへの協力依頼があり、石井副会長より日薬連盟ブロック協議会について、原口副会長より全国SNS実務担当者会議について、石井副会長より「若手薬剤師指導者育成フォーラム」日程と会務報告があった。10分の休憩後、本田あきこ中央後援会の報告があり、川田幹事長からはタイムスケジュール、石井副会長から今後の会合について、浜田副会長より全国訪問について、大澤副会長より名簿収集説明会と名簿管理システム説明会について、原口副会長より広報について、石井副会長より支援団体への訪問について、中原副幹事長より薬学生向け講演会について説明があった。その後、川田幹事長より、得票目標数と名簿目標数について説明があり、大原副幹事長の閉会挨拶で本会議は終了した。